

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成28年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立鶴ヶ島清風高等学校		Bグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校として目指す方向が、課題に基づいて明確に示されている学校像である。学校統合後10年目を迎えることから、基本理念、現在の状況、将来展望等を改めて確認し、学校に寄せられる期待に十分応え、学校の特色や強みを生かしたものに工夫できると更に良い。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が三つの柱として設定されている。目指す学校像の実現に向けて重点化された適切なものとなっており、生徒の学力や進路希望など学校の状況を踏まえた目標となっている。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会・企画委員会と分掌・学年・教科が連携し、学校自己評価システムが運営されている。分掌・学年・教科が連携しながら目標達成を目指す組織体制が整備され、適切な方策が策定されている。年度当初に学校自己評価システムの年間計画が示され、様々な資料の分析結果を共有して取組を検証しており、優れた取組である。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	自習室の活用、教職員研修会の実施など、全校を挙げての様々な方策が実施され、具体的な成果も上がってきている。評価指標については、何を、いつまでに、どの程度行うのかといった視点を取り入れ、取組指標と成果指標をうまく組み合わせで分かりやすいものを設定する工夫があると更に良い。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の現状や課題を踏まえた明確な学校経営の方針を示し、学校自己評価システムを生かして組織力を高めている。校長のリーダーシップが的確に発揮され、分掌・学年・教科が全体の目標を理解した上で、適切に連携して全校を挙げての取組が行われている。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートを実施して学校自己評価のための情報を収集し、教職員研修会に活用するなど課題解決の取組に生かしている。各種アンケートの工夫を進め、学校関係者の意見やアンケートの結果等を更に有効に活用し、次年度のより具体的な取組につなげるようにしていただきたい。	
特記事項			